

# 篤姫・和宮が江戸城に潜入せよ!!



【皇居正門】現在の皇居正門は、かつての西の丸大手門であった。

【二重橋】かつては両橋とも木造で、昔から二重橋と呼ばれていた。

【桜田門】井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」で有名である。

【坂下門】和宮降嫁に尽力した老中・安藤信正が襲撃された現場。

【櫓榎門】三の丸に続く南門で幕府の要職者が登下乗した門。

【桜田二重櫓】櫓の中には鉄砲や弓などの武器が保管されていたが。

【大手門】かつての江戸城の正門で、諸大名はここから登城した。

【平川門】大奥の女中が出入りしたため「お局門」とも呼ばれた。

【北詰櫓門】大奥に通じる門であったため、ここは堀は異常に深い。

【百人番所】江戸城本丸へ向かうには、「同心番所」や「大番所」で馬から下り、検問を受けなければならなかった。そこから徒歩で歩き、最後に「百人番所」でもう一度、検問を受けるのだ。

【同心番所】

【大番所】

【天守閣跡】天守閣は明暦の大火での焼失以降、再建されなかった。

【富士見多聞】日本丸時代のもので唯一、現存の建物。当時の倉庫だ。

【富士見櫓】大火以降、天守閣の変わりにも使用されていたという。

【松の廊下】忠臣蔵で有名な松の廊下跡。残念ながら石標が残るのみ。

【石室】非常の際の、大奥用の調度品などが納められていた。

【大奥跡】大奥の跡地。ここも残念ながら看板があるのみ。



## 歴史が巡り合わせた篤姫と和宮の江戸入り

今回の幕末散歩は来年度の大河ドラマを控え、にわかに話題を集めている「篤姫」と「和宮」だ。篤姫は十三代将軍・家定の正室であり、薩摩よりある政治目的のために嫁いでいったのだ。実は家定には脳性麻痺の疑いなどもあり、ペリー来航で騒然とする幕末の動乱を指揮する力などなかった。当然、世継ぎの期待もできず、就任早々から次の將軍継嗣が問題となっていた。そこで白羽の矢がたったのが篤姫である。老中の阿部正弘や薩摩の島津斉彬らは時期將軍を英明の噂のあった慶喜にするために協力し、篤姫を大奥へ送り込んだ。大奥より將軍を動かし、慶喜の擁立を画策したのである。この計画には西郷隆盛も奔走している。しかし、この計画も井伊直弼の登場によって失敗した。次期將軍は大老となった井伊の推す家茂と決定したので。そして、それから間もなくという妙なタイミングで家定が没すると、家茂は正式に將軍となった。そして、ここから歴史は急速に動きだす。



1【有栖川宮熾仁親王騎馬像】「宮さん」で有名な有栖川宮の像。 2【板橋本陣跡】板橋のスーパー横にひっそり立つ本陣跡の碑。 3【縁切榎】現在でも多くの方が訪れている。 4【江戸城跡】皇居前の史跡を示す説明板。

櫻田門外の変で井伊が殺害。この白昼堂々と大老が殺されるとい幕府始まって以来の大事業に、幕府の権威は一気に失墜した。そこで何とか権威を回復しようと考え出されたのが家茂の正室に天皇の妹・和宮を迎えるという公武合体策であったのだ。これに対しても反対する攘夷派浪士が、老中・安藤信正を坂下門で襲撃している。坂下門外の変である。

ともあれ、和宮降嫁は実現された。実はこの時、和宮には婚約者が決まっていた。有栖川宮熾仁親王だ。この婚約は当然、白紙となったのだが、有栖川宮といえば王政復古の新政府の総督であり、戊辰戦争では征東軍の大総督として指揮した「宮さん宮さん」のモデルである。婚約者を取られた恨みという訳ではないだろうが、非常に皮肉めいている。さらに征伐する幕府のトップは、西郷らが篤姫を送り込んでまで將軍にしようとしていた慶喜であるのだから、いかに幕末が揺れに揺れた激動の時代であったのかを感じさせる。現在、南麻布の有栖川宮記念公園には「有栖川宮熾仁親王馬像（1）」が建っている。

また、和宮降嫁に関して、もう一つ面白い話がある。京より江戸に向かう途中、一行は「板橋本陣（2）」に宿泊することになったのだが、この本陣のすぐ近くに「縁切榎（3）」と呼ばれる榎があり、この榎の下を嫁入りの行列が通ると必ず不縁になるといふ言い伝えがあったのだ。和宮降嫁の際にもこの言い伝えに配慮し、榎を弧で包み、そこを迂回して通ったと言われている。ちなみに現在でもここは縁切りしたい男女が訪れるスポットとなっており、必要な方は一度、訪ねてみるとよいだろう。

TOKYO

街に残る江戸の終焉跡

# 東京幕末歩き

～皇居から芝増上寺そして板橋など～

其の⑨ 篤姫と和宮

取材・文・構成◎三澤敏博(絡繰堂)

BAKUMATSU WALKING

来年度の大河ドラマも期待の「篤姫と和宮」政局に翻弄されながらも毅然に生きた二人た足跡に迫る!!

# ATSUHIME & KAZUNOMIYA

みさわとしひろ デザイン・イラスト制作を生業とするかわら、見つけた銅像は三六〇度写真に収めるといふコンセプトのもと、日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。その幕末好きが高じて、オリジナルの幕末グッズも制作している。「絡繰堂」 <http://karakurido.net/>



## 大奥の確執とは裏腹に徳川を救った二人の尽力

このように様々な政治背景を背負って「江戸城（4）」の大奥に入った篤姫と和宮。関係で言えば嫁姑である。よく魎魅魍魎の大奥などいわれるが、二人の関係はどうであったのだろうか。

やはりはじめ、二人の関係はあまり良くなかったという。皇族である和宮には、薩摩の田舎者である篤姫に何故、頭を下げなければという思いがあったのだ。和宮は髪型や服装なども大奥のしきたりに従わず、宮中のルールで生活したという。

しかし、幕末の動乱の中、家茂も病没すると、互いに未亡人となった二人は過去の確執も忘れて、大政奉還から討幕へと流れていく徳川家の存亡の為に共に力を尽くした。篤姫は故郷・薩摩の西郷らへ、和宮は天皇家に、徳川家の存亡と慶喜の助命を嘆願したのだ。徳川家が存亡した背景にはこの二人の女性の尽力があったのである。

これらの活動が功を成し、江戸城も無血開城となった。彼女らは大奥の品を何も持ち出さずに、そのまま立ち去ったという。

その後、篤姫は、徳川十六代を継ぐことを許された家達の養育に尽力し、四八歳で亡くなった。墓は寛永寺にあり、夫の家定と並んで眠っている。



5【増上寺】芝公園にある増上寺は徳川家の菩提寺である。 6【徳川家霊廟】増上寺内には六人の徳川將軍が眠っている。 7【和宮像】増上寺内の安国殿には家康が信仰した黒本尊が祀られ、その両脇に和宮像と聖徳太子像が祀られている。

一方の和宮は三二歳で亡くなり「増上寺（5）」の「徳川家霊廟（6）」にやはり夫の家茂と並んで眠っている。また同寺の安国殿には「和宮像（7）」が祀られている。

ところで、増上寺の徳川家墓所は昭和三年に改装されているのだが、その時に掘り起こされた和宮の遺骸は一枚の写真板を抱いていた。そして、これには烏帽子姿の男子が写っていたというのだ。ところが翌日、急に空気に触れたためか、写真はただのガラス板になってしまったのだ。おそらく、これは初の家茂の写真であろう。非常に惜しいが、どこかミステリアスでいて、いい話ではないか。

篤姫

和宮